

【湯沢市岩崎地区：岩崎地区自治会議・町内協議会】 ～対話による地域づくりを進めて50年～

拠点
運営

生活
支援

<地区の概要>

湯沢市北部に位置し、人口約1,500人あまりで、稲作のほか果樹などが盛んな農村地域であるほか、地区内には工業団地があり、地区外からの通勤者も多く日中人口の多い地域である。小学校は平成23年に廃校となっており、子どもたちは、直線距離で3kmほど離れた学校にスクールバスで通学している。

高齢化率は、30%を超えているものの、湯沢市全体と比較すると低くなっているが、一人暮らしの高齢者は増加傾向にあり、道幅が狭く、家も密集し流雪溝が整備されていない場所も多いことから、特に冬期間の生活対策が求められている。

<地区の取組>

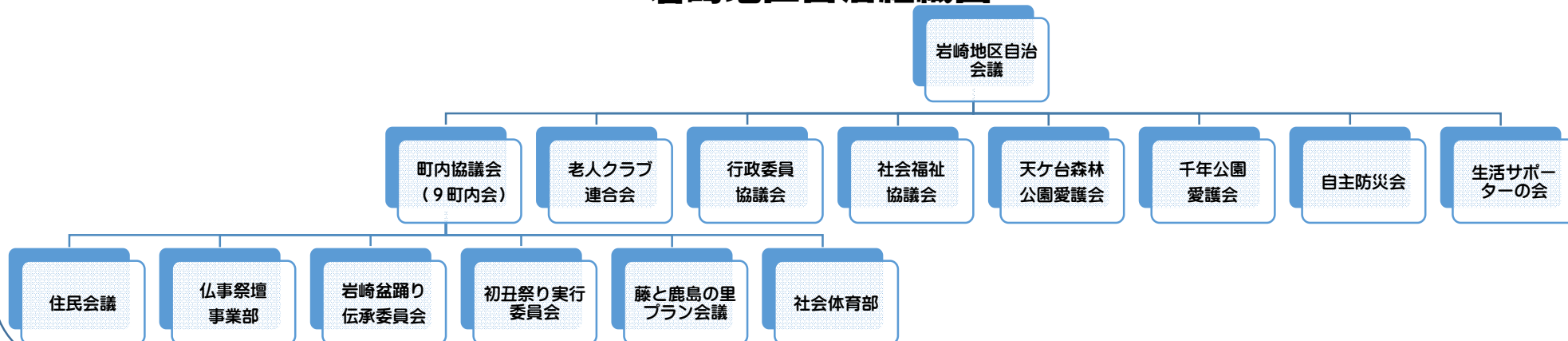
昭和45年に青年会OBの有志が「千年友和会」を立ち上げたのを契機に、住民同士の対話から課題を整理し、その解決を目標に動くのを基本とした活動を行い、組織体制を変化しながら活動を継続。

平成20年からは、市ふるさとふれあいセンター「かしま館」と旧岩崎小学校体育館の指定管理を受託し、地域拠点を運営しながら、地域住民の対話を基本に、住民合意を図り地域課題を解決してきている。



初丑裸まつり

岩崎地区自治組織図



【今後の課題】

自治会議と町内協議会は、役員の多くが重複しているほか、組織が複数あることで事務手続きが煩雑になっていることから、負担軽減のため組織統合を含めたあり方を検討している。

助走期

【昭和45年】

青年会OB有志が
「千年友和会」を設立

ホップ期

【昭和50年】

最初の専門部として
住民会議発足

【～平成2年】

仏事祭壇事業部や岩崎盆
踊り伝承委員会など専門
部を次々に発足し、事業を
展開



停滞期

【平成4年】

千年友和会が解散
※住民対話の停滞

挫折・再挑戦期

【平成12年】

町内協議会の発足

【平成13年】

地域内の各団体が連携し
た自治会議の発足



☆取組のポイント

岩崎地区の取組における最大のポイントは、住民同士
の対話を重視すること。対話から判明した地域課題を解
決するために動くことを毎年繰り返している。

【平成30年】

岩崎地区活性化プラン策定



【平成26年】

生活サポーターの会を設立
し、雪下ろし作業などの共
助活動を開始



【平成20年】

市ふるさとふれあいセンター「か
しま館」、旧岩崎小学校体育館
の指定管理を受託



【平成14年】

町内協議会と自治会議の
実質的な事務局機能を担う
NPO法人岩崎NPO設立

ステップ期

挫折・再挑戦期